

# 第108回卒業式を挙



東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人 偶数月末日  
発行日 1部10円  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎ 025 (267) 1500



大学のシンボルマーク

## 両学部169名が巣立つ 卒業証書番号No.21339号に

日本歯科大学第108回卒業式(学位記授与式)は、3月初旬両学部において挙行し、169名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第56回修了式が催され、25名に博士(歯学)の学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

### 第56回大学院修了式を併催

生命歯学部は3月6日(水)に生命歯学部富士見ホールにおいて大学院第56回修了式を併催して挙行された。定刻午前10時、司会の高橋孝幸事務部長が開式を宣した。まずクラス主任の添野雄一教授より2018年度(平成30)卒業生103名の氏名が呼びあげられ、別府大嘉繁君が代表して中原泉学長より、栄えある卒業の証として学士(歯学)の学位記を授与された。つづいて学術優秀賞26名、6力年皆勤賞12名、精勤賞8名、5力年精勤賞1名、学術奨励賞10名、臨床実習優秀賞2名の受賞者に対して賞状等が授与された。ついで大学院生命歯学研究科委員の里見貴史教授より、大学院生命歯学研究科博士課程修了生16名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。つぎに中原学長と、沼



卒業式で告辞を述べる中原泉学長 (上・3月6日/東京、下・3月8日/新潟)



卒業式で告辞を述べる中原泉学長 (上・3月6日/東京、下・3月8日/新潟)

### 計報

前校友会会長  
光安一夫先生逝去

日本歯科大学校友会の前会長で、同会名誉会員・相談役の光安一夫先生は、3月25日に逝去された。享年86。子息は附属病院総合診療科の光安廣記助教。

つづいて在学学生を代表して、第5学年の榎本仁君が先輩を送る送辞を、卒業生を代表して別府大嘉繁君が答辞を述べ、大学院修了生を代表してHiromi Yagi Mendonzaさんが英語で答辞を述べた。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱して、午前11時30分に閉式した。

東京短期大学の卒業式は、短大事務室の今井久枝事務長の司会で、3月5日午前10時より、生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず、第50回歯科理工学科卒業生23名と第46回歯科衛生学卒業生72名の氏名が呼びあげられ、奈良陽一郎学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科理工学)の学位記が授与された。

つづいて学術優秀賞10名、皆勤賞2名、精勤賞4名、5力年精勤賞1名、学術奨励賞10名、臨床実習優秀賞1名の受賞者に対して賞状等が授与された。

つづいて大学院新潟生命歯学研究科長の新海航一教授より、新潟生命歯学研究科博士課程修了生9名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与され、渡邊美穂さんに大学院研究発表優秀賞が贈られた。

つづいて中原学長と、藤井一維新潟生命歯学部学長、新海航一大学院新潟生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

つづいて在学学生を代表して、第5学年の町田東子さんが先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して南祥之君、大学院修了生を代表して栗田武君が答辞を述べた。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱して、午前11時50分に閉式した。

東京短期大学の卒業式は、短大事務室の今井久枝事務長の司会で、3月5日午前10時より、生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず、第50回歯科理工学科卒業生23名と第46回歯科衛生学卒業生72名の氏名が呼びあげられ、奈良陽一郎学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科理工学)の学位記が授与された。

つづいて学術優秀賞10名、皆勤賞2名、精勤賞4名、5力年精勤賞1名、学術奨励賞10名、臨床実習優秀賞1名の受賞者に対して賞状等が授与された。

つづいて大学院新潟生命歯学研究科長の新海航一教授より、新潟生命歯学研究科博士課程修了生9名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与され、渡邊美穂さんに大学院研究発表優秀賞が贈られた。

つづいて中原学長と、藤井一維新潟生命歯学部学長、新海航一大学院新潟生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部



学位記を授与される卒業生代表(東京)



卒業生代表から答辞が述べられた(新潟)

新潟短期大学の卒業式は、短大事務室の須貝将紀事務部長の司会で、3月7日午前11時より、新

つづいて在学学生を代表して、第5学年の町田東子さんが先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して南祥之君、大学院修了生を代表して栗田武君が答辞を述べた。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱して、午前11時50分に閉式した。

東京短期大学の卒業式は、短大事務室の今井久枝事務長の司会で、3月5日午前10時より、生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず、第50回歯科理工学科卒業生23名と第46回歯科衛生学卒業生72名の氏名が呼びあげられ、奈良陽一郎学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科理工学)の学位記が授与された。

つづいて学術優秀賞10名、皆勤賞2名、精勤賞4名、5力年精勤賞1名、学術奨励賞10名、臨床実習優秀賞1名の受賞者に対して賞状等が授与された。

つづいて大学院新潟生命歯学研究科長の新海航一教授より、新潟生命歯学研究科博士課程修了生9名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与され、渡邊美穂さんに大学院研究発表優秀賞が贈られた。

つづいて中原学長と、藤井一維新潟生命歯学部学長、新海航一大学院新潟生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

新潟生命歯学部は、3月8日(金)に新潟生命歯学部の部

はタイトル通りで、著者の長谷川嘉哉先生は認知症専門医として岐阜で開業している。今まで認知症の患者を1万人ぐらいた診しているが、認知症患者さんに奇跡をおこしているのは、医師ではなく、歯科医師だという。その思いはエスカレートし、昨年先生のクリニックに、歯科ユニットを設置して、歯科衛生士を雇用した。最近では周術期の口腔機能管理のために、歯科を標榜しない病院でも歯科医師や歯科衛生士を雇用している。これからはみなさんの働く場が広がる。国民の健康を守る医療人だという自負をもって、日々研鑽していただきたい」と祝辞を述べた。

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

つづいて、第20回専攻科歯科衛生学専攻修了生6名と、専攻科在宅歯科医療学専攻修了生1名に修了証書が授与された。うち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位記が授与された学

### 辞令

教授 五十嵐文雄  
医学博士 富田 涼一  
新潟生命歯学部耳鼻咽喉科学教授併任を命ずる  
医学博士 富田 涼一  
名誉教授の称号を授与する  
平成31年3月1日 本学







# 大学院研究科長 告辞

生命歯学研究科長  
八重垣 健



大学院修了生のみならず、わが国最高峰の学位を得た。東大や京大でも学部卒は学士で、博士の

学位より下なのだ。それだけのものを持ったことをまず自覚してほしい。一方で多くのみなさんは学位論文締め切りまで書き直して苦勞し、多くの院生が、半泣きだったことを私は知っている。こんなに勉強したのは初めてだったかもしれない。今日の学部卒業生のみなさんは6年生のときに国試に向けて、こんな

に勉強したことはないと思っているだろう。しかし、博士号を得るのはほんの勉強ではない、さきほどの学長の告辞のように、知的好奇心をもち、探求心をもち、自らやるのが本当の勉強である。大学院修了生のみならず、それに苦しんだ。ご父兄に本研究科の博士号試験システムを説明したい。試験までに学生は世界の英文学術誌に博士論文出版許可をもらわなければならない。学術

志のなかでもIF(インパクトファクター)という国際的評価があることが望まれ、IF点数が高いう学術誌が推奨される。今年度の博士論文のすべて16編は、IFのついた学術誌に投稿した。この事実は国立大学大学院の医学研究科・歯学研究科でも本場に稀である。

その論文の一部を1階のロビーに提示しているのをご覧いただきたい。近年、奇妙な現象がおきている。IFのある学術誌に論文が受理されても、本学で博士号試験をやると大幅な書き直し、訂正が要求されるケースが増えてきた。学術誌の質が低下する一方、本学

の審査は高いレベルを維持しているからだ。逆に言うとう国際学術誌より本学の方が優秀になったと言える。生命歯学部卒業生に良きお手本を残した大学院修了生のみなさん、大学院研究科長として心より感謝し、告辞とする。(3月6日)

# 東京短期大学 学長告辞

東京短期大学学長  
奈良陽 一郎



みなさんがこの世に生きて、医師や歯科医師による診察や治療を受けたことのない人はいないだろう。私たち医療人は、

う。私たち、患者・国民の医療を担う者にとつて、最も大切なことは、自らの躰と心で経験した病の辛さや不安を常に思い出し、治療に当たることだ。医療とは、これを行う者の側にあるのではなく、医療を受ける人々のためにある。

われが校を巣立つ両学科のみなさんが学んできた領域には、それぞれ特徴がある。歯科理工学科の場合は、モノあるいは機器を駆使しながら、症例にに応じた修復物を間接的に作製する技能を身に付けてきた。歯科衛生学科では、歯科疾患に罹った患者さんと直接的に接し、歯科医師、歯科技師、コデンタルスタッフとともに治療に当たる術を身に付けてきた。したがって、日々接する対象は、模型・器材と患者さんという差異がある。しかし、両者の目標は、いづれも生身の躰と心を持つヒトを癒すことに違はない。

本日卒業の日であると同時に、歯科衛生士として社会人のスタートラインに立つ日でもある。そこで今後心に留めていただきたい三つのキーワードをお話ししたい。みなさんは、歯科衛生士として処置や診療補助を行うときには患者さんの脇に座ることが多いのではない。

また就職すると職場では新人なので、困ること、戸惑うこと、分からぬことなどに直面することが多いだろう。そのようなときには「ホウ・ソウ」に気が掛かる

ようなことはためらわずに報告、連絡、相談し、意思疎通を図っていたいただきたい。医療の現場ではチームワークがとりわけ重要で、現場でのキーワードは報告、連絡、相談の「ホウレンソウ」である。医療の進歩はとどまることを知らない。学生時代には講義や実習で新しい知識、技術を学習できたが、これからは自らの努力が必要だ。超高齢社会になって歯科衛生士の役割はさらに大きくなっている。積極的に新しい知識、技術の習得に努めてほしい。

国家試験に合格すれば歯科衛生士として国家資格をもつことになる。医療職としての国家資格をもつ者に対する周囲から期待、羨望、注目度は想像以上である。その分、期待に反することがあると、批判はより厳しくなる。職業人、社会人としてのキーワードは医療職としての自覚である。健康で大いに活躍されることをお祈りして告辞とする。(3月7日)



奈良学長の告辞に聞き入る卒業生たち



答辞を述べる卒業生代表(東京短期大学)

卒業生一人ひとりに学位記を手渡す五十嵐学長

卒業生代表による答辞(新潟短期大学)

# 新潟生命歯学研究科長 新海航一



今回の修了生のなかに3年間で学位を取得した早期修了者が1名いる。この修了生は3年生の昨年12月にインパクトファクター(IF)付きの英文誌に学位論文がアプセプト(受理)された。その報告をもとに研究科委員会が慎重に審議した結果、早期修了者として学位論文の審査を受けることが承認され、みごと学位論文審査に合格した。

4年間でIF付き英文誌に学位論文がアクセプトされるのは非常に厳しい現状で、3年生の12月に、アクセプトされた点が高く評価された。早い時期に研究を開始して、非常に膨大なデータをま

とめて、短期間で論文に仕上げるには、相当の努力が必要だったろう。4年間の修了者の学位論文もすべてIF付き英文誌に投稿され、すでに掲載されている論文もある。IF付き英文誌では、レビューが厳しい上にアクセプトまで1年を要する学術誌もあるようだ。本研究科では、このような現状に鑑み、今のところIF付き英文誌の場合、サブミット(論文受付)を学位論文審査の条件とし、1年以内にアクセプトされるものが学位記授与の前提条件となっている。

過去5年間のIF付き英文誌への掲載率は、2013年度(平成25)55%、14年度100%、15年度70%、16年度75%、17年度67%である。1年以内のアクセプト率となるとさらに低くなる。

諸君はこれまで数多くの学術大会や研修会に参

加し、発表も行い所属学会の認定医や専門医の認定試験受験に必要な研修単位を獲得していると思う。その単位を無駄にしないで、認定医や専門医の資格を取得してほしい。これからの活躍を大いに期待し、研究科長告示とする。(3月8日)

みなさんがこの世に生きて、医師や歯科医師による診察や治療を受けたことのない人はいないだろう。私たち医療人は、

われが校を巣立つ両学科のみなさんが学んできた領域には、それぞれ特徴がある。歯科理工学科の場合は、モノあるいは機器を駆使しながら、症例にに応じた修復物を間接的に作製する技能を身に付けてきた。歯科衛生学科では、歯科疾患に罹った患者さんと直接的に接し、歯科医師、歯科技師、コデンタルスタッフとともに治療に当たる術を身に付けてきた。したがって、日々接する対象は、模型・器材と患者さんという差異がある。しかし、両者の目標は、いづれも生身の躰と心を持つヒトを癒すことに違はない。

また就職すると職場では新人なので、困ること、戸惑うこと、分からぬことなどに直面することが多いだろう。そのようなときには「ホウ・ソウ」に気が掛かる

ようなことはためらわずに報告、連絡、相談し、意思疎通を図っていたいただきたい。医療の現場ではチームワークがとりわけ重要で、現場でのキーワードは報告、連絡、相談の「ホウレンソウ」である。医療の進歩はとどまることを知らない。学生時代には講義や実習で新しい知識、技術を学習できたが、これからは自らの努力が必要だ。超高齢社会になって歯科衛生士の役割はさらに大きくなっている。積極的に新しい知識、技術の習得に努めてほしい。

卒業生一人ひとりに学位記を手渡す五十嵐学長

卒業生代表による答辞(新潟短期大学)

4年間でIF付き英文誌に学位論文がアクセプトされるのは非常に厳しい現状で、3年生の12月に、アクセプトされた点が高く評価された。早い時期に研究を開始して、非常に膨大なデータをま

とめて、短期間で論文に仕上げるには、相当の努力が必要だったろう。4年間の修了者の学位論文もすべてIF付き英文誌に投稿され、すでに掲載されている論文もある。IF付き英文誌では、レビューが厳しい上にアクセプトまで1年を要する学術誌もあるようだ。本研究科では、このような現状に鑑み、今のところIF付き英文誌の場合、サブミット(論文受付)を学位論文審査の条件とし、1年以内にアクセプトされるものが学位記授与の前提条件となっている。

過去5年間のIF付き英文誌への掲載率は、2013年度(平成25)55%、14年度100%、15年度70%、16年度75%、17年度67%である。1年以内のアクセプト率となるとさらに低くなる。

諸君はこれまで数多くの学術大会や研修会に参

加し、発表も行い所属学会の認定医や専門医の認定試験受験に必要な研修単位を獲得していると思う。その単位を無駄にしないで、認定医や専門医の資格を取得してほしい。これからの活躍を大いに期待し、研究科長告示とする。(3月8日)

みなさんがこの世に生きて、医師や歯科医師による診察や治療を受けたことのない人はいないだろう。私たち医療人は、

われが校を巣立つ両学科のみなさんが学んできた領域には、それぞれ特徴がある。歯科理工学科の場合は、モノあるいは機器を駆使しながら、症例にに応じた修復物を間接的に作製する技能を身に付けてきた。歯科衛生学科では、歯科疾患に罹った患者さんと直接的に接し、歯科医師、歯科技師、コデンタルスタッフとともに治療に当たる術を身に付けてきた。したがって、日々接する対象は、模型・器材と患者さんという差異がある。しかし、両者の目標は、いづれも生身の躰と心を持つヒトを癒すことに違はない。

また就職すると職場では新人なので、困ること、戸惑うこと、分からぬことなどに直面することが多いだろう。そのようなときには「ホウ・ソウ」に気が掛かる

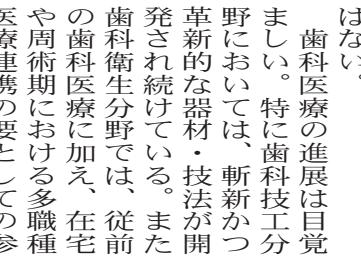
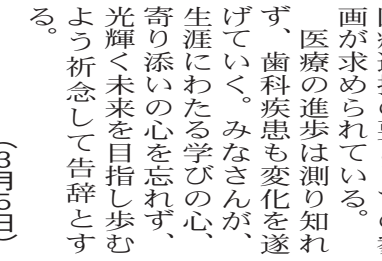
ようなことはためらわずに報告、連絡、相談し、意思疎通を図っていたいただきたい。医療の現場ではチームワークがとりわけ重要で、現場でのキーワードは報告、連絡、相談の「ホウレンソウ」である。医療の進歩はとどまることを知らない。学生時代には講義や実習で新しい知識、技術を学習できたが、これからは自らの努力が必要だ。超高齢社会になって歯科衛生士の役割はさらに大きくなっている。積極的に新しい知識、技術の習得に努めてほしい。

卒業生一人ひとりに学位記を手渡す五十嵐学長

卒業生代表による答辞(新潟短期大学)

## 2019 卒業式点景

写真上・生命歯学部(3月6日) 写真中・新潟生命歯学部(3月8日)  
写真下・左/東京短期大学(3月5日) 右/新潟短期大学(3月7日)



卒業生一人ひとりに学位記を手渡す五十嵐学長



卒業生代表による答辞(新潟短期大学)



